

教化センターだより

No399

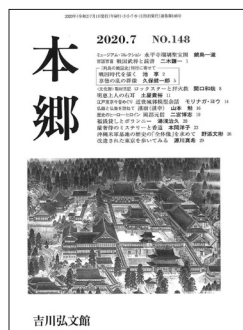
発行日 2020年 9月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◇ 教化センターで読める！ 定期購読誌のご紹介 ◇

大阪教区教化センターでは、住職・寺族のための様々な月刊誌等を取り寄せています。今回はその一部をご紹介します。

『月刊住職』

● 仏教界全般の出来事をはじめ寺院運営、住職活動、寺族の生活に欠かせない、さまざまな情報を的確・具体的に掲載します。● 今、仏教界ならびに寺院の中で何が起きているのか詳しく実地取材します。(HPより引用)



『本郷』

本誌では、全国の美術館・博物館が所蔵する古今東西の名品を学芸員の解説とともに紹介する「ミュージアム・コレクション」や、日本史学界の碩学による巻頭エッセイ「百話百言」、仏師たちの活動に光りを当てその作風や製作の背景を折り重ねていく「仏師と仏像を訪ねて」その他など、随筆・創作を含めてバラエティに富んだものを掲載しています。(HP参考)

※そのほかにも、

- 「文化時報 (毎週水曜・土曜の二回発行)」
- 「中外日報 (毎週水曜・金曜の二回発行)」
- 「仏教タイムス (毎週木曜発行)」

など各紙面も取り揃えています。



— 教化リーフレットの

『活用』について —

4枚の「教化リーフレット」は、各寺院・教会において「寺報」や個別に複写しての配布、同朋会や聞法会での教材として活用いただければ幸いです。

— の用リーフレット —

リーフレット①

「揭示板のしよび」……稲垣洋信
「念仏もうすのみや
すえとおりにたる
大慈悲心にてそうらう」

リーフレット②

「今月のじよび」……越本達子
「天親菩薩論註解
報土因果願誓願」

リーフレット③

「もろもろ相談」……山口知文
「風水は本当に迷信
なのでしょつかっ」

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」
『果実の味』

(敬称略)

念仏もうすのみぞ

すえとおおりたる

大慈悲心にて

そうろう

『歎異抄』

義母の祥月命日にお参りをしたあと、家族それぞれに感話をしました。その時義父が「いつまでも亡くなった人を責めないでくれ」と言い出しました。よくよく義父の話を聞いてみると、家族が「あの時もう少し気遣っていれば」「ちゃんと薬を飲むように言えばよかった」と自責の念をもって義母の死を受け止めていることについて、自分自身で義母の命がどうにかなるようになっているのではないかと咎めていたのです。また、自責の念に駆られていることそのものが死を悪い事としているようで、本当は生も死も一つであるということ、義父は伝えようとしていたのです。

死別という悲しみを、遺された家族が互いに労り受け止めようと一年間暮らしてきたつもりでした。しかしそれは、自己中心的な慈悲の心であることを報されました。

親鸞聖人は「慈悲」にも、聖道門（自力）と浄土門（他力）の慈悲は異なるとおっしゃっています。聖道門は、苦悩する全てのいのちをあらゆる慈しみ、自らの力で救済しようとする心のことで、極めて困難なことです。一方、浄土門の慈悲は、阿弥陀仏の本願を憶念することによって、真実の道理に目覚め、阿弥陀仏の大慈悲心によって、苦悩する全てのいのちが救済されることを確信することができるところです。その大慈悲心に私たちは飽きることなくいつも照らされているのだと聖人はおっしゃっています。

この度の義父の言葉には、亡き人・尊いいのちそのものを自分の力でなんとかしようとしている私に、仏さまの方からかけられている大慈悲心に目覚め、生も死もともにあるいのちを生きることが伝えてくれたのだと思います。

(稲垣洋信)

天親菩薩論註解
報土因果顕誓願

天親菩薩の『論』、註解して、
報土の因果、誓願に顕す。

親鸞聖人は、曇鸞大師の註解あればこそ、天親菩薩の『浄土論』のお心をいただくことができ、またといたうことを、「天親菩薩論註解」とうたわれ、その最初の内容を「報土の因果、誓願に顕す」と述べられています。

阿弥陀仏の本願が成就し、その願いに報いられた国土を「報土」と表します。その報土が建立された原因も、すでに開かれてあるという結果も、また私たちがそこに往生するとする原因も結果も、すべて阿弥陀仏の誓願によるということ。「報土因果顕誓願」と表されました。阿弥陀仏が仏に成られる前は、法蔵という名の菩薩でした。法蔵菩薩は、力のない人も悪人もすべての人が往生できる浄土を建立したいと願われ、「もしその願いが成就しなければ、私は仏にならない」と誓われました。

私たちのイメージでは、浄土に生まれたら何の煩いも悩みもなく楽になるだろうと思っっています。しかし浄土に生まれるということは、やれやれとそこで腰を下ろすことではなく、逆にいつも楽になりたいと願っている私がこの苦悩の止むことのない現実に身を据え、苦悩や問題を受け止めて課題に立ちあがるということなのです。曇鸞大師は、『浄土論註』の中で、浄土に生まれるとそこから願いに生きる身になるということとか「浄土の命を捨てる」とか「浄土を捨てて苦悩の世界に生きる」と、おっしゃいます。「報土」の「報」とは、願いに報いられたという意味と共に、仏の願心を私に報せるといふはたらきのように感じます。

つまり、浄土に生まれたら、やれやれ嬉しと浄土に居座るのではなく、現実の課題に立ちあがり歩む者となる。「もしその願いが成就しなければ、私は仏にならない」という法蔵菩薩の誓願が報され、私も生活の中で仏の願いに生きる身として立ちあがる勇気をいただくのです。「立ちあがる勇氣」というと勇ましく聞こえますが、それは安んじて歩んでいけるということで、何度でも転んでゆける道がすでに開かれているということが報される。だからこそ、苦悩の止むことのない現実の真っ只中に身を据えて生きようとする力が与えられるのです。

(越本達)

今月のことば出典 『正信偈』

『真宗聖典』

206頁

『真宗大谷派 勤行集』(赤本)

もしもし相談



風水は本当に迷信
なのでしょうか？

問

最近「風水」にはま
っています。身の回

りの環境を良いものにした
いし、仕事やお金も運気が上
がればうまくいくそうです。風
水で成功した話などがテレビ
でよく紹介されていますが、
本当に迷信なのでしょうか。

(24歳・女性)

答

実は、何を隠

そう私の家の庭
にも「風水」で邪気を払
うとされる「桃」の木が
植えられています。「桃」
の花は、五弁になっており、
これが「五福」を招くの
だそうです。しかしなが

ら、その効果は望めずに、
相変わらず嫌なことはど
んどん降りかかって参り
ました。「一体、風水って
何？」と思い、色々調べ
てみました。

「風水」の起源は、中国
の殷・周の時代(紀元前
十世紀頃)の宅地や村落
の「吉凶」を占う「卜宅」
とよばれるものがはじま
り、それが後に、陰陽
五行説を取り入れながら
理論確立し盛んになって
いったものであるようで
す。したがって、「明暗・
善悪・吉凶」に揺れ動く
人間の心が基になり、織
りなされる現実に対する
「予断」「予想」、すなわち
「占い」ではないという
ことではないかと。
そうは言っても私たち

は、生活の中で様々な不
安を抱えていますので、
「風水」や「星座占い」で
その不安を言い当てられ、
しかも改善策を示された
りすると、もう何の躊躇
もなくそれに従ってしま
います。

でも私は、「それが人間
というもの」だと思いま
す。自分にとって都合の
良いことばかりを望む心
に立って、思いを超えた
現実を捉えるならば、「思
い通りにならないことば
かり」との悲嘆にくれる
より他にありません。そ
んな根性を変えられない
私たちは、現実に対して
徹底的に「弱い者」でし
かないと思います。

しかし、そんな私たち
の為に、用意され開かれ

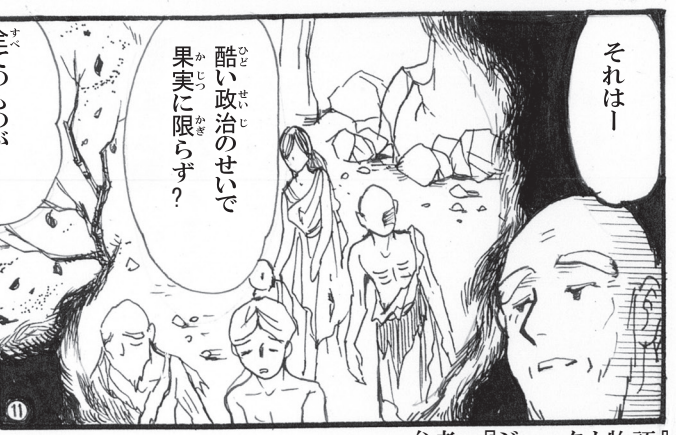
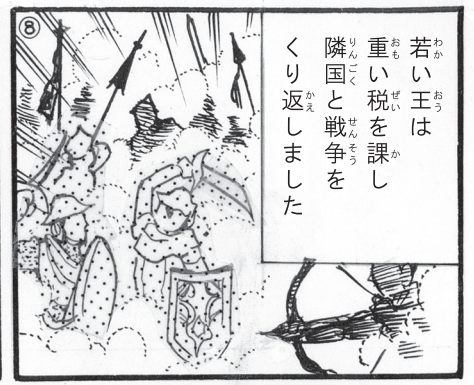
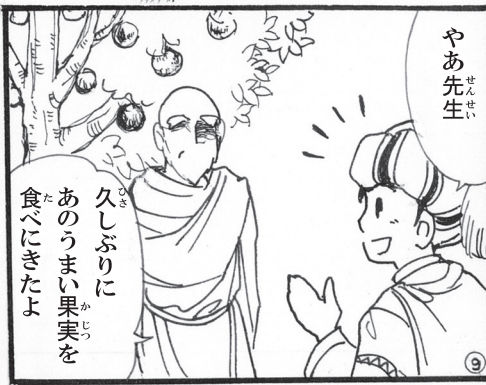
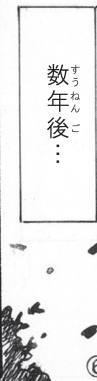
た世界があります。それ
は他でもない、親鸞聖人
のお念仏の教えであり、
それを共々に聞いていく
「聞法」という場です。迷
いや憂いを抱え、自分で
自分を持て余すような私
たちが「言い当てられ」
「包み取られて」いく世界
が、現実にあなたを待っ
て準備されています。「何
故、苦しむのか。苦しみ
の原因は何なのか？」に
ついて、大変厳密に解き
明かされてきたのが、仏
教そのものなのです。「聞
法の場」を通じて「風水」
や「星座占い」とは違った、
より確かな「言い当てら
れ体験」「自己発見」を得
られますことをお勧めい
たします。

(山口知丈)



仏典マンガ・仏さまのおしえ

絵：小川ゆきえ〈183〉



参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編547話からなっています。多くの經典の中に引用されて、經典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ 334)